

独立行政法人 日本芸術文化振興会 第4回 契約監視委員会 議事要旨	
開催年月日	平成22年11月9日(火) 14:00～ 第1会議室
委員名簿 (敬称略)	池田 温(武蔵野音楽大学教授) 伊田 若江(弁護士) 島村 和男(独立行政法人日本芸術文化振興会監事)※委員長 徳丸 吉彦(聖徳大学教授) 峯岸 芳幸(独立行政法人日本芸術文化振興会監事)※委員長代理
議事次第	1.委員長の選出及び委員長代理の選出について 2.平成21年度契約に関する点検・見直し事項(第3回委員会議案)の報告及び改善策について 3.平成22年度年間契約に関する点検・見直しについて(審議事項) 4.その他
審議点検対象	平成22年度 年間契約(契約金額100万円以上)全件 ※平成22年度の年間契約全件のうち、委員によるサンプル抽出された契約(随意契約:2件、一般競争契約:2件)
サンプル契約① 及び 審議結果	【競争性のない随意契約】 ・「平成22年度 新国立劇場業務委託」・「平成22年度 国立劇場おきなわ業務委託」 劇場運営業務委託契約については、委託形態、内容、検査及び効率性の適正性ならびに振興会の運営との整合性について説明できるようにしておくことが必要。
サンプル契約② 及び 審議結果	【競争性のない随意契約】 ・「平成22年度 文楽公演における囃子方出演契約」 出演契約については、他に変わる者がいない理由について、誰もが理解し納得できる説明として備えておく必要がある。
サンプル契約③ 及び 審議結果	【一般競争契約】 ・「平成21・22年度 国立劇場構内清掃業務」・「平成22・23年度 国立文楽劇場清掃業務」・「平成22年度 国立能楽堂清掃業務」 「構内清掃業務委託契約については、本館と能楽堂はそれぞれ一者応札、文楽劇場では複数者とはいえ高落札率となっているが、平成23年度より本館と能楽堂の契約は両館の契約を一本化一括発注とし、その際の参加条件も緩和をするなど問題点の改善と合理化を図り現在契約準備を進めているとのことであり、入札の結果に結びつくことを期待する。
サンプル契約④ 及び 審議結果	【一般競争契約】 ・「平成22年度 国立能楽堂座席字幕表示装置運用業務」 字幕表示装置運用業務については、一般競争入札の参加条件や仕様書を整理し、業務の内容や求めている条件を明確に具体的に示し、業者が正確な理解と判断ができるようにすることが必要。
総括	(1) 審議方法概要と結果 平成22年度の年間契約全件のリストを対象に委員の選択によるサンプルを抽出した。競争性の無い随意契約と一般競争契約の内からそれぞれ、類似性・共通性の高い案件に重点をおいて選び出し点検審議をした。事前に契約関係書類一式により契約内容等の点検確認を行い、委員会では契約原課の職員にも出席を求め直接説明を受け検討と審議を行った。結果、特に問題となる点は認められなかったが、本委員会による検討提案事項の改善策を今後速やかに活用し、より透明性・競争性の高い入札・契約事務が実施されることを期待する。 (2) 検討事項・提案事項 一般競争契約では、入札参加要件や仕様書で求める内容、特に専門性や技能などの必要条件を整理し、業務の趣旨や求めている条件を具体的・明瞭・正確に提示することが必要と考える。競争参加を望む者が、その業務の内容と必要条件を正しく理解することが参加への判断を促し、将来への展望ともなり、より競争性を高めるものと考え。 契約全般では、同種同様の案件で参加資格や仕様書などで統一がとれていない部分が散見していた。振興会全体の事務の手法として、類似性の高い部分については比較考量をも容易とする整合性のある標準型を作成し、必要な場合にはそれぞれの特異性を明確にするなどにより事務の効率性と専門性の均衡をとるなどの整備と改善が必要と考える。